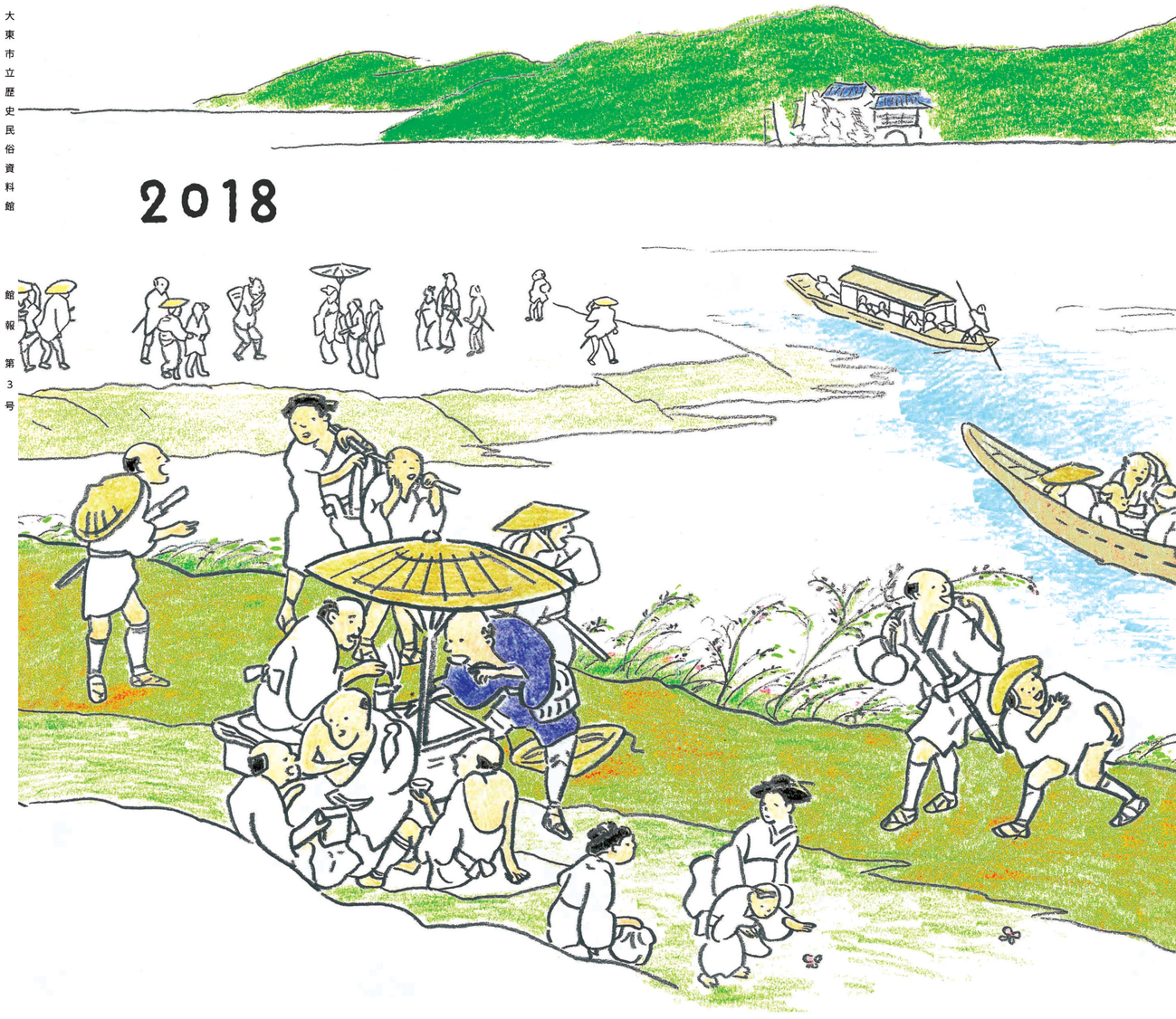
ISSN 2433-1767

大東市立歴史民俗資料館

2018

館報第3号



大東市立歴史民俗資料館

館報　第3号

2018

ごあいさつ

大東市立歴史民俗資料館は、昨年度より「みんながつながる楽しくひらかれた資料館」というミッションをたて、活動を行ってきました。このミッションのもとに行った活動について、『大東市立歴史民俗資料館　館報』第３号として報告します。

昨年度は、展示事業としては、春季展から冬季展まで６回の展示と、それに伴う講演会や見学会などの関連事業を実施しました。その内、春季展「野崎観音の信仰」、６月の「大東の古代遺跡」展、秋季展「寝屋川流域の村」の３つの展示については、大東市教育委員会との共催で開催しました。また飯盛城跡の発掘調査報告会「クローズアップ飯盛城」を昨年度に引き続き、四條畷市・大東市の両教育委員会と歴史民俗資料館が共催で開催しました。

当館の市民学芸員との事業については、河内木綿や「衣」をテーマにして活動を行い、ふれあいセンター内にて木綿の栽培を行いました。また、それに関わる古文書や民具といった収蔵史資料の調査・整理を行い、市民学芸員が史資料の写真撮影を行ってデジタルアーカイブ化を進めました。

そして、当館は平成 26 年度より平成 28 年度まで「だんじりを活かした地域共働事業」を平成 29 年度から昨年度まで「進化系アーカイブと旅するミュージアム事業」として、文化庁より「文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館･歴史博物館支援事業）」を交付され、活動を行って参りました。昨年度は、地元企業や団体と連携してアウトリーチプログラムの試行を行いました。また、一昨年度に当館で開催した「TATSUMA」展を奈良大学博物館にて開催致しました。

最後に、資料館と学校の連携促進を図りました。市内小学校向けに団体見学の解説、出前授業等、要望に応じて個別に対応してきたものを、昨年度スクールプログラムとして PR できたことで、冬季展「ちょっとむかしのくらし」の展示解説や出前授業などで利用されることが多くなりました。

この『大東市立歴史民俗資料館　館報』を通じて、皆様に当館の活動をご覧頂くことにより、ご助言を仰ぎ、当館の博物館活動をこれまで以上に充実したものになるよう努めて参りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

2020 年 3 月 31 日
大東市立歴史民俗資料館
館長　大畑　博嗣

大東市立歴史民俗資料館　職員（平成 31 年 3 月 31 日現在）

館　　長　　武井　二葉

奈良大学にて美術史を学んだのち、博物館・美術館教育を専攻、博物館・美術館にて実践を重ねる。2009 年より大東市立歴史民俗資料館学芸員として勤務。その他、大阪経済大学非常勤講師（『博物館情報メディア論・展示論』）など。

副 館 長　　大畑　博嗣

博士（文学）。大谷大学真宗総合研究所研究補助員、大谷大学研修員などを経て、2012 年 4 月より学芸員として当館に勤務。2016 年 4 月より主任学芸員を経て、2017 年 10 月より現職。専門は日本仏教史。中世堺における仏教教団史が主たる研究テーマだが、明治期の真宗寺院再建史や近代の真宗大谷派学事史に関する論文も執筆。資料館では、文献史料を担当。

学 芸 員　　森井　綾乃

2017 年京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻染織修了。2014 年 9 月より現職。主に展示や広報物の制作・デザイン、河内木綿に関する取り組み等を担当する。

学 芸 員　　甲斐　規予子

京都造形芸術大学歴史遺産学科文化財保存修復コース卒業後、国立民族学博物館での勤務を経て 2016 年 9 月より現職。資料館では民俗資料を担当。市民学芸員と協同し、民俗資料収蔵庫の収蔵展示や、バックヤードツアーに取り組んでいる。

学 芸 員　　森田　拓馬

奈良大学文化財学科保存科学コース卒業後、模型や複製品製作の民間企業に勤める。2018 年 4 月より現職。資料館では体験機材の製作や、モノづくりの視点から資料を見る取り組みを担当する。

学 芸 員　　北村　美香

博士 (博物館学)。琵琶湖博物館での特別研究員や大阪市博物館協会を経て、滋賀県平和祈念館の学芸員として開館準備室より勤務。その後、博物館の教育普及等を支援する結 creation を、2015 年に立ち上げる。2018 年 4 月より現職。資料館では、教育普及および運営に関するサポートを行っている。

大東市立歴史民俗資料館　市民学芸員（平成 31 年 3 月 31 日現在）

浅野　純郎	岡田　寧寧	小泊　繁美	中西　昭治	平嶋　貞子
安達　昌代	柿木　薫	柴田　俊雄	中村　義之	広田　美和
石田　薫	金澤　涼子	竹元　智子	西川　瑞代	兵庫　順子
伊藤　幸美	金澤　涼夏	田里　孝子	橋野　喜美恵	前田　喜久子
今岡　暁子	加茂　伸子	為則　照子	服部　悦子	松田　薫
上野　繁	川人　美智子	為則　泰明	林田　惠子	松本　幸広
氏原　稔夫	北野　武司	辻村　恵子	檜垣　一美	水永　八十生
大薗　美貴子	栗山　登志子	寺原　千佳子	樋口　佳文	森川　安生
大藪　庸子	黒川　喜和子	冨増　由起子	平尾　寿美子	吉武　文恵
岡島　怜子	桒原　妙子	中下　志津子	平尾　和久	

目　次

ごあいさつ

Ⅰ　館報

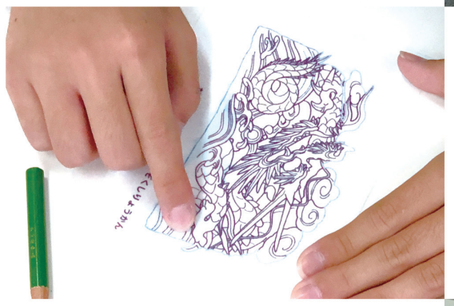
1　資料館事業報告
- 1　展示・関連事業　6 － 10
- 2　学芸員体験講座　11
- 3　講師派遣事業　12 － 16
- 4　その他の事業　17 － 18
- 5　スクールプログラム　19
- 6　資料貸出　20 － 21
- 7　月別入館者数　22

2　市民学芸員事業報告
- 1　例会・連絡会会議・見学会　24
- 2　市民学芸員提案事業　25 － 27
- 3　何かし隊・学芸員提案事業　28 － 29

Ⅱ　研究報告

・「市民参加型展示の新たな形をさぐる」
北村　美香　32 － 36

・【研究ノート】三好長慶と本願寺・証如との関係
―本願寺関係史料から見る―
大畑　博嗣　(1) － (8)



Ⅰ 館報

1 資料館事業報告

2018

文化財指定記念展
野崎観音の信仰
平成 30 年 3 月 17 日 (土) ～ 5 月 27 日 (日)

参加者数 / 2397 名 (期間中入館者数)
担　　当 / 大畑 博嗣
内　　容 / 教育委員会との共催展示。慈眼寺の本尊「十一面観音立像」が、平成 29 年度に大東市教育委員会によって調査が実施され、多くのことが判明し、翌年 1 月には指定文化財に指定された。本展では、今回行われた調査成果について解説し、また寺が所蔵する史料も展示して、寺の歴史を紹介をした。

企画展関連事業
講演会・見学会「野崎観音を知る・見る」
4 月 15 日 (日) 13 時ー 16 時

参加者数 / 41 名　講師 / 吉原 忠雄さん (大阪大谷大学非常勤講師)、大畑 博嗣

本尊調査を担当した講師より、調査の成果報告と仏像の見方について講演会を行った。その後、展示室で展示の解説を行い、慈眼寺へ移動して本尊を拝観して、講師から改めて本尊の見方を解説した。

まんが「大東の歴史」古代編発刊記念
大東の古代遺跡展
平成 30 年 6 月 3 日 (日) ～ 7 月 16 日 (月・祝)

参加者数 / 1649 名 (期間中入館者数)
主　　催 / 大東市教育委員会　（協力 / 大東市立歴史民俗資料館）
内　　容 / 大東市教育委員会との協力展示。まんが「大東の歴史」古代編の発刊を記念し、大東市内の古代遺跡を紹介します。まんがに登場した遺跡・遺物や、普段公開されない遺物など、市の多彩な古代に触れる。

企画展

みんなで見る！知る！楽しむ！野崎のまち

平成 30 年 8 月 4 日 (土) ～ 9 月 30 日 (日)

参加者数 / 2511 名 (期間中入館者数)
担　　当 / 武井 二葉、北村 美香
内　　容 / 大東市野崎地区をテーマとした展示を実施した。野崎参道商店街を中心とした現在の町を紹介する第一章「野崎のまち」、古写真で昔の野崎の風景を紹介する第二章「野崎写真集」、資料館スタッフがおすすめの 3 点を紹介する第三章「野崎の資料館」から構成した。

企画展関連事業

「のざき大辞典をつくろう」

6 月 10 日 (日)、8 月 10 日 (金)、19 日 (日) 13 時半ー 16 時

参加者数 / 18 名 (延べ人数)　講師 / 北村 美香

何気ない日常の発見や気づきを「存在感」・「お気に入り」・「博物館」の言葉を写真でつないで、のざき発見カードを作成する。作成したカードは、企画展内に掲示した。

秋季展

寝屋川流域の村 ―『東家文書』から見る諸福村の歴史―

平成 30 年 10 月 6 日 (土) ～ 12 月 2 日 (日)

参加者数 / 2245 名 (期間中入館者数)
主　　催 / 大東市教育委員会、大東市立歴史民俗資料館
担　　当 / 大畑 博嗣
内　　容 / 大東市史編纂史料集 8『諸福村東家文書』の出版を記念し、地域に残されている貴重な古文書を中心に、発掘された考古遺物や民俗資料、宗教絵画などを展示し、諸福村の歴史を多角的に紹介する。

企画展関連事業

ワークショップ「だんじりプラ板をつくろう」

10 月 28 日 (日) 14 時ー 16 時

参加者数 / 12 名　講師 / 大畑 博嗣、市民学芸員 2 名

3 館連携事業「大東のだんじりフェス 2018」の一環として、公民館・生涯学習センターアクロスと共催。だんじりの彫物のトレース図をプラ板に印刷し、参加者に色を塗ってもらった後、トースターで焼き、ストラップを付けて持ち帰ってもらった。

見学会 + 講演会「諸福の昔を見る・知る」

11 月 17 日 (土) 13 時ー 16 時

参加者数 / 44 名　講師 / 岡村 喜史さん (市史編纂委員)、溝辺 悠介さん (奈良県立民俗博物館主任学芸員)

諸福地区にある文化財や寺社を見学したあと、講師による諸福地区の歴史に関わる講演会を行った。

1

展示・展示関連事業

企画展

ちょっとむかしのくらし

平成 31 年 1 月 12 日 (土) ～ 3 月 3 日 (日)

参加者数 /　2366 名 (期間中入館者数)

担　　当 /　甲斐 規予子、森井 綾乃、市民学芸員

内　　容 /　家のなかで使う道具の移り変わりをテーマとした展示。市民学芸員と制作したプチ特集では、「河内木綿」をテーマに、ふれあいセンターで育てた木綿の紹介や、木綿に関係する古文書、民具などを展示した。

企画展関連事業

「れきみんカーニバル」

3 月 2 日 (土) 13 時ー 16 時

参加者数 / 41 名　講師 / 市民学芸員、他

「ちょっとむかしのくらし」展の展示関連事業として、だんじりプラバン・収蔵庫たんけんツアー・布の不思議探しなど学芸員が提案したワークショップや、市民学芸員による民話の紙芝居、かるた遊び、ぶんぶんごま作りといった様々なワークショップをこどもを対象に実施した。

2

学芸員体験講座

学芸員体験講座

平成 30 年 6 月 23 日 (土)、7 月 28 日 (土)、8 月 25 日 (土)、9 月 22 日 (土)、10 月 27 日 (土)、11 月 24 日 (土)、12 月 22 日、平成 31 年 1 月 26 日 (日)、2 月 23 日 (土)、3 月 23 日 (土)

参加者数 /　217 名 (延べ人数)

担　　当 /　武知 邦博さん (枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館 学芸員)、笠井 敏光さん (大阪国際大学 教授)、武井 二葉、大畑 博嗣、森井 綾乃、甲斐 規予子、北村 美香

内　　容 /　第 1 回　ガイダンス・大東の歴史
第 2 回　展示のプロセスと方法
第 3 回　考古資料の見方・調べ方
第 4 回　市民学芸員活動について
第 5 回　市内文化財見学
第 6 回　美術資料の見方・扱い方
第 7 回　近隣の博物館見学
第 8 回　文献資料の見方・調べ方
第 9 回　民俗資料の見方・調べ方
第 10 回　まとめ

公民館　古文書サークル

平成 30 年 4 月 24 日 (火)、5 月 22 日 (火)、6 月 14 日 (木)、7 月 19 日 (木)、8 月 16 日 (木)、9 月 20 日 (木)、10 月 18 日 (木)、11 月 15 日 (木)、12 月 20 日 (木)、1 月 17 日 (木)、2 月 21 日 (木)、3 月 21 日 (木・祝)　14 時～ 16 時半

参加者数 /　97 名 (延べ人数)
担　　当 /　大畑 博嗣
内　　容 /　昨年 8 月から「初めて古文書を読む会」としてサークル活動を開始したため、『大東市史編纂資料集』に掲載されている古文書を使い、参加者へ古文書解読の講座を行った。

大東市立野外活動センター「民具×米作り体験」

平成 30 年 5 月 3 日 (木・祝)、5 月 27 日 (日)、6 月 3 日 (日)、7 月 1 日 (日)、8 月 5 日 (日)、9 月 2 日 (日)、10 月 8 日 (月・祝)、10 月 28 日 (日)、11 月 24 日 (土)　10 時～ 16 時

参加者数 /　128 名
主　　催 /　認定 NPO 法人大東市青少年協会　(協力 / 大東市立歴史民俗資料館)
担　　当 /　大畑 博嗣、甲斐 規予子、森田 拓馬
内　　容 /　田舟、馬鍬といった所蔵民俗資料を活用した米作り体験。

第 1 回　苗床づくり
第 2 回　代掻き
第 3 回　田植え
第 4 回　草取り
第 5 回　草取り
第 6 回　かかし作り・草取り
第 7 回　稲刈り
第 8 回　脱穀
第 9 回　試食会

大阪産業大学工学部総合教育科目「大阪産業大学と社会」

平成 30 年 5 月 1 日 (火)　10 時 40 分～ 12 時 10 分

参加者数 /　128 名
担　　当 /　大畑 博嗣
内　　容 /　工学部 1 回生の一般教養科目として、「大阪産業大学と社会」が開講されており、その中で「大東の歴史と名所・旧跡」という題目で講義を行った。

阪南大学「博物館資料論」学外講義

平成 30 年 6 月 24 日 (日)　10 時半～ 16 時

参加者数 /　17 名
担　　当 /　大畑 博嗣、甲斐 規予子、森田 拓馬
内　　容 /　博物館資料論を実地で学べるよう、館蔵の「文献資料」「民俗資料」「資料の梱包方法」を活用し、講義と実習を行った。

大阪国際大学博物館実習事前実習

平成 30 年 7 月 8 日 (日)　10 時 15 分～ 16 時

参加者数 /　18 名
担　　当 /　武井 二葉、大畑 博嗣、甲斐 規予子
内　　容 /　博物館実習の事前学習として、資料の取り扱い方を中心に実習。館蔵の文献資料、民俗資料を活用して実施した。

大阪国際大学
「文化プロデュース論」学外講義

平成 30 年 8 月 30 日 (木)　10 時 30 分〜 11 時 30 分

参加者数 /　10 名
担　　当 /　大畑 博嗣
内　　容 /　歴史民俗資料館と歴史とスポーツふれあいセンターの概要について説明したあと、展示室や収蔵庫など館内の見学を行った。

シニア総合大学観光学部
講義 (1 大東の歴史 /2 龍間編)

平成 30 年 9 月 5 日 (水)、27(木)　13 時半〜 15 時半

参加者数 /　20 名 (延べ人数)
担　　当 /　武井 二葉、大畑 博嗣
内　　容 /　大東の歴史1では大東の歴史について講義した後、展示室と収蔵庫の見学を行った。大東の歴史 2 では平成 29 年度開催した「TATSUMA」展に向けた調査で明らかになった龍間地区の歴史や文化について講義を行った。

京都橘大学
「公共施設論」学外講義

平成 30 年 9 月 13 日 (木)　10 時〜 12 時

参加者数 /　19 名
担　　当 /　大畑 博嗣
内　　容 /　資料館とふれあいセンターの概要について説明したあと、展示室や収蔵庫など館内の見学を行った。

生涯学習センターアクロス
だいとうアクロス歴史文化カレッジ

平成 30 年 10 月 15 日 (月)、11 月 19 日 (月)、12 月 17 日 (月)
14 時〜 16 時

参加者数 /　54 名 (延べ人数)
担　　当 /　大畑 博嗣
内　　容 /　「大東市の文化財」という題名で、市内の歴史について、『諸福村東家文書』『河合家文書』『平野屋会所文書』などの紹介を踏まえながら講義を行った。

大東市商工会議所創立 20 周年記念　二十歳の感謝まつり
だんじりプラ板をつくろう

平成 30 年 11 月 11 日 (日)　9 時 30 分〜 16 時

参加者数 /　18 名
担　　当 /　市民学芸員 2 名、武井 二葉、北村 美香、日高 昭子
内　　容 /　明星金属工業株式会社より依頼を受けて、平成 29 年度、文化庁補助金事業「旅するミュージアム」として実施したアウトリーチ事業を実施した。より多くの市民に資料館の存在を知ってもらう機会を創出した。

大谷大学
「博物館教育論」講義

平成 30 年 12 月 18 日 (火)　16 時 20 分〜 17 時 50 分

参加者数 /　25 名
担　　当 /　大畑 博嗣
内　　容 /　当館が取り組んでいる事業について、博物館教育論の観点から事例報告を踏まえつつ講義を行った。

3

講師派遣事業

アクティブ・スクエア・大東
大東ピクニック

平成 31 年 2 月 16 日 (土)　10 時〜 15 時

参加者数 /　38 名

担　　当 /　武井 二葉、日高 昭子、杉林 真樹子

内　　容 /　平成 30 年度文化庁補助金事業として実施。だんじりの部材の展示や、だんじりと相撲の関わりについての解説パネルを設置した。また、だんじりの獅噛のお面作りのワークショップも実施した。

門真市立歴史民俗資料館
市民学芸員養成講座

平成 31 年 2 月 17 日 (日)　13 時〜 15 時

参加者数 /　20 名

担　　当 /　大畑 博嗣

内　　容 /　門真市立歴史民俗資料館が実施している「市民学芸員養成講座」の一環で、資料館の館内見学を行った。その後、当館の市民学芸員との交流を図るため、懇談会を実施した。

河内れんこん商い道ウォーキング

平成 31 年 3 月 24 日 (日)　12 時半〜 13 時半

参加者数 /　20 名

担　　当 /　武井 二葉

内　　容 /　門真蓮根の歴史と農家たちの歩みを、歴史的な道のりを「歩く」ことによる理解を目的とした、「河内れんこん商い道ウォーキング」のコース内の龍間地区の歴史案内を行った。

4

その他事業

飯盛城発掘調査報告会
「クローズアップ飯盛城」

平成 30 年 7 月 1 日 (日)　13 時〜 16 時

参加者数 /　398 名

共　　催 /　大東市教育委員会、四條畷市教育委員会、大東市立歴市民俗資料館、四條畷市立歴史民俗資料館

内　　容 /　平成 27 年度から行われている国史跡に向けた飯盛城跡の発掘調査について、実際に発掘を担当している職員から報告とパネルディスカッションが行われた。

奈良大学博物館　平成 30 年度　企画展 1
「地域のくらしとまつり　よみがえれ！だんじりの龍」展

平成 30 年 7 月 7 日 (土) 〜 8 月 31 日 (金)　平日 10 時〜 16 時 30 分 / 土曜 9 時〜 12 時

参加者数 /　1260 名 (期間中入館者数)

担　　当 /　武井 二葉、大畑 博嗣、森井 綾乃、甲斐 規予子

内　　容 /　平成 30 年度文化庁補助金事業による出張展示を奈良大学博物館にて実施。平成 29 年に当館にて行った、龍間地区のくらしとまつりをテーマとした展示を再構成して展示した。

文化庁補助金事業　学芸員スキルアップ研修
出前プログラムの作り方〜誰もが学べる場をめざして〜

平成 31 年 1 月 20 日 (日)　14 時〜 17 時 30 分

参加者数 /　45 名

講　　師 /　佐藤 優香さん (東京大学大学院情報学環 客員研究員)、他

内　　容 /　「アウトリーチ (出前プログラム)」をテーマとして、高齢者やしょうがい者を対象とした取組みも交えながら、誰もが利用できるミュージアムの在り方について、学芸員だけではなく様々な立場から考える研修を実施した。佐藤優香氏に「みんぱっく」開発から学んだこととプログラム開発の要素というテーマで講義をしていただき、その後はゲストによるそれぞれの事例を紹介していただいた。

4

その他事業

文化庁補助金事業　プチ研修
「むかしのくらし」の未来を創る

平成 31 年 1 月 22 日 (火)　18 時～ 20 時 30 分

参加者数 /　14 名

講　　師 /　佐藤 優香さん (東京大学大学院情報学環 客員研究員)

内　　容 /　小学校における博物館利用がとても多い「むかしのくらし」。これまでの実践を見直し、新たなプログラムの創造を試みる。展示、貸出しキット、ワークショップなどについて、自慢のプログラム、悩みや提案を持ち寄って、新しい学習指導要領も見据えた「むかしのくらし」の未来を考えるワークショップを行った。

公民館共催事業
「苔をたずねて、大東歴史さんぽ」

平成 31 年 2 月 15 日 (金)　14 時～ 16 時

参加者数 /　18 名

講　　師 /　道盛正樹さん (NPO 法人大阪自然史センター理事)、大畑 博嗣

内　　容 /　神社を訪れて、神社の歴史を解説しながら、境内に生息するコケ植物を観察し、講師より解説を行った。

文化庁補助金事業
公開講座「織りたい！」

平成 31 年 3 月 3 日 (日)　14 時 30 分～ 17 時 30 分

参加者数 /　34 名　　講師 /　植村 和代さん (帝塚山大学名誉教授)、身体 0 ベース運用法 (染色美術作家 安藤 隆一郎さん)、森井 綾乃、市民学芸員 4 名

内　　容 /　外部講師による講演と、平成 30 年度市民学芸員の河内木綿に関する活動報告や今後の展望について発表した後、簡単な織りのワークショップを行った。

5

スクールプログラム

市内小学校団体見学利用実績

日時	学校名	学年	人数
8 月 30 日 (木)	四条小学校	4 年生	81 名
10 月 10 日 (水)	四条小学校	4 年生	80 名
1 月 22 日 (火)	四条北小学校	3 年生	86 名
2 月　1 日 (金)	三箇小学校	3 年生	70 名
2 月　6 日 (水)	北条小学校	3 年生	52 名
2 月 13 日 (土)	四條畷学園小学校	3 年生	105 名
2 月 15 日 (金)	南郷小学校	3 年生	86 名
2 月 28 日 (木)	住道南小学校	3 年生	85 名

合計 7 校　645 名

小学校講師派遣事業

日時	学校名	学年	担当	内容	人数
1 月 16 日 (水)	北条小学校	3 年生	武井 二葉、甲斐 規予子	洗濯板体験	49 名
1 月 18 日 (金)	氷野小学校	1 年生	武井 二葉、甲斐 規予子	糸車体験	81 名
1 月 21 日 (月)	三箇小学校	1 年生	武井 二葉、森田 拓馬	糸車体験	80 名
1 月 24 日 (木)	住道北小学校	1 年生	武井 二葉、甲斐 規予子	糸車体験	62 名
1 月 29 日 (火)	住道南小学校	1 年生	武井 二葉、甲斐 規予子	糸車体験	77 名
2 月　4 日 (月)	南郷小学校	1 年生	森井 綾乃、甲斐 規予子	糸車体験	90 名
2 月 14 日 (木)	住道南小学校	3 年生	武井 二葉、甲斐規予子	洗濯板体験	83 名
2 月 22 日 (金)	寝屋川市立桜小学校	1 年生	武井 二葉	糸車体験	72 名

洗濯板 2 校、糸車 6 校　合計 8 校　594 名

① 資料の貸し出し

資料名	貸出先	目的	公開期間
田植えメジャー　2 本	氷野小学校	5 年生の田植えのため	平成 30 年 5 月 22 日 ～ 6 月 15 日
ミシン　1 点 お櫃 (ふた、身)　1 点 教科書　1 点 レコード　2 点 ラジオ　1 点 茶たんす　1 点 ちゃぶ台　1 点	富田林市人権政策課	富田林市「第 34 回平和を考える戦争展」に展示するため	平成 30 年 8 月 8 日 ～ 8 月 17 日
中垣内遺跡　素紋鏡（SK-06） 中垣内遺跡　桃種（SK-10） 中垣内遺跡　土器 (SK-10) 中垣内遺跡　土器 (SK-15) 中垣内遺跡　土器 (ST-02) 寺川遺跡　土器 北新町遺跡　土器 (第 3 次調査 L 区) 中垣内遺跡　遺構 (第四遺構面) 全景 寺川浜遺跡　B 区・第 4 遺構面全景 北新町遺跡　L 区第 3 遺構面全景 北新町遺跡　M 区第 3 遺構面全景	四条畷市教育委員会	特別展「卑弥呼、大和王権と北河内」への展示のため	平成 30 年 9 月 3 日 ～ 12 月 28 日
中垣内遺跡出土　人形上木製品	滋賀県安土城考古博物館	秋季特別展「キミにそっくりな古代人がいたよ－原始・古代の人物表現－」に展示	平成 30 年 10 月 5 日 ～ 12 月 21 日
平野屋新田開所跡 「又」の刻印境界石	安中新田会所跡 旧植田家住宅	秋季企画展「新田開所、時々鉄道」展にて展示	平成 30 年 10 月 27 日 ～ 12 月 24 日
石切場写真	大阪城天守閣	大阪城天守閣 2 階の常設展パネル「石のふるさと」に掲載するため	平成 30 年 12 月 12 日 ～ 12 月 21 日
地車・宮入りの図（写真） 踏車（写真）	個人	大東市内シンポジウム会場	平成 31 年 1 月 13 日 ～ 3 月 31 日
飯盛城縄張図　原図	(有) ソイ・ソース・クリエイティブ	テレビ番組「ミステリアスジャパン」(BS テレ東) にて三好長慶を特集する際、飯盛城を紹介するコーナーにて使用するため。	平成 31 年 4 月 6 日 午前 7 時～午前 8 時
飯盛城赤色立体図	(有) ソイ・ソース・クリエイティブ	テレビ番組「ミステリアスジャパン」(BS テレ東) にて三好長慶を特集する際、飯盛城を紹介するコーナーにて使用するため。	平成 31 年 4 月 6 日 午前 7 時～午前 8 時
野崎観音本尊十一面観音パネル	個人	「野崎まいり」プレゼン資料に利用のため。	平成 31 年 3 月 25 日 ～ 3 月 31 日
歴史民俗資料館　館内写真	大東市都市魅力観光課	攻城団サイト内において、大東市の旅行プラン掲載を依頼する中で、飯盛城・野崎城址を巡った後に歴史民俗資料館を訪れ、学びを深めてもらうという趣旨でサイト内に写真と案内を掲載するため。	平成 31 年 3 月 25 日 ～ 3 月 31 日

合計 11 件 30 点

② 資料の撮影・掲載・閲覧

資料名	申請者	目的	申請日	撮影日
犂	個人	撮影・計量	平成 30 年　7 月 10 日	—
羽釜　(アルミ製) 羽釜　(鉄製) 鍬	個人	資料写真撮影	平成 30 年 10 月　9 日	—
飯盛城跡出土品　(12 点)	大阪府立近つ飛鳥博物館	閲覧、メモ帳撮影	平成 30 年 10 月 19 日	
国見高地性遺跡出土石器	大阪府立弥生文化博物館	閲覧・写真撮影	平成 30 年 11 月　8 日	平成 30 年 12 月 14 日
踏車	個人	写真撮影	平成 30 年 11 月 18 日	—
諸福村安田村下村領堺之図 寝屋川新堤道橋願書 諸福村耕地之図 若江郡新開新田内深野川緑替地証文 下郷より用水出入ニ付始末済嗟上請	個人	閲覧及び写真撮影	平成 30 年 12 月　5 日	—
平野屋会所文書　(87 点)	個人	閲覧	平成 30 年 12 月 28 日	—
御請書　(松平肥後守御預り新選組御局長 近藤勇様　元治元年 12 月 13 日)	日野市立新選組のふるさと歴史館	閲覧	平成 31 年　1 月　5 日	—
河内名所図会（彩色）	株式会社エムエイ	企業の営業エリアの紹介環境ビデオの 1 シーンとして「野崎まいり」を使用するため。	平成 31 年　1 月 31 日	—

合計 9 件 112 点

7

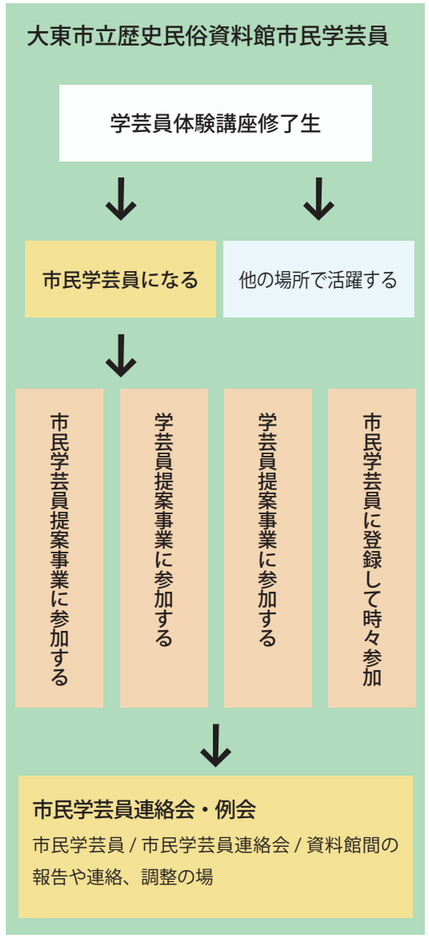
月別入館者数

月	開館日数	一般来館者数			団体来館者数			事業参加者数	来館者数合計
		大人	子ども	計	大人	子ども	計		
4月	28	809	134	943	79	0	79	133	1155
5月	29	1089	86	1175	32	0	32	317	1524
6月	28	880	70	950	87	0	87	198	1235
7月	29	1047	113	1160	0	0	0	572	1732
8月	29	1169	207	1376	2	79	81	177	1634
9月	27	925	106	1031	23	0	23	208	1262
10月	29	951	54	1005	131	78	209	212	1426
11月	28	1069	58	1127	58	0	58	428	1613
12月	26	754	47	801	9	0	9	174	984
1月	27	727	106	833	11	82	93	518	1444
2月	26	887	131	1018	21	377	398	418	1834
3月	29	854	85	939	0	0	0	292	1231
合計	335	11161	1197	12358	453	616	1069	3647	17074

2018

1

例会・連絡会会議



今井町寺内町見学会

市民学芸員連絡会会議

平成 30 年 4 月 14 日、5 月 12 日、7 月 14 日、8 月 11 日、9 月 8 日、10 月 13 日、11 月 10 日、12 月 8 日、平成 31 年 1 月 12 日、2 月 9 日、3 月 9 日 (土)　13 時半～ 14 時

出 席 者 /　武井 二葉、大畑 博嗣、森井 綾乃、甲斐 規予子、森田 拓馬、市民学芸員提案事業代表者

内　　容 /　市民学芸員例会に際し、事前に報告や連絡を行う調整会議。

市民学芸員例会

平成 30 年 4 月 14 日、5 月 12 日、6 月 9 日、7 月 14 日、8 月 11 日、9 月 8 日、10 月 13 日、11 月 10 日、12 月 8 日、平成 31 年 1 月 12 日、2 月 9 日、3 月 9 日 (土)　14 時～ 16 時

参加者数 /　229 名 (延べ人数)

登録者数 /　50 名

内　　容 /　市民学芸員連絡会、市民学芸員提案事業、学芸員提案事業、例会からそれぞれ報告や連絡を行う。

市民学芸員見学会
今井町寺内町

平成 31 年 3 月 17 日 (日)　14 時～ 16 時

参加者数 /　18 名

内　　容 /　市民学芸員活動の一環として、ボランティアガイドの案内で、奈良県橿原市今井町の寺内町各所を見学した。

2

市民学芸員提案事業

石造物・民話・人物グループ

平成 30 年 5 月 12 日、6 月 9 日、7 月 14 日、8 月 11 日、9 月 8 日、11 月 10 日、12 月 8 日、平成 31 年 1 月 12 日、2 月 9 日、3 月 9 日 (土)　14 時～ 16 時

登 録 者 /　安達 昌代、上野 繁、加茂 伸子、川人 美智子、北野 武司、栗山 登志子、黒川 喜和子、田里 孝子、辻村 恵子、中下 志津子、中村 義之、林田 惠子、平嶋 貞子、水永 八十生

内　　容 /　私たちのチームは、「大東の石造物」とともに、平成二十九年度において大東市の民話を加え、『大東の石造物と新むかしばなし』として一冊のレポート集にした。さらに、安達・加茂・黒川・林田・中下氏等により、東口恵子著『民話から見えたふるさと大東―見とこ聞いとこ歩いてみよう―』などを参考にしながら「紙しばい」を作成した。

今日、大東市においても都市化が進み、生活環境が急速に変化していく中で、大東の財産である民話はだんだん忘れさられてきている。

「大東の民話」という大東の原風景、この風景を「紙しばい」という形で残していきたい。

そこに我々チームの切なる願いがある。以下、主な「紙しばい」として

(1)　飯盛山のふもと
(2)　中池のガタロウ
(3)　御領の段倉
(4)　マメダヌキ
(5)　河内湖・堂山古墳―「かぐや姫」
(6)　飛鳥時代―遣隋船が河内湖を走る
(7)　平安時代―大きな池となる清少納言『枕草子』に記された「勿入渕」　など

(原稿：市民学芸員 中村 義之)

収蔵庫チーム

平成 30 年 5 月 12 日、6 月 9 日、7 月 14 日、8 月 11 日、9 月 8 日、10 月 13 日、11 月 10 日、12 月 8 日、平成 31 年 1 月 12 日、2 月 9 日、3 月 9 日 (土)　14 時～ 16 時

登 録 者 /　氏原 稔夫、来原 妙子、柴田 俊雄、竹元 智子、為則 照子、為則 泰明、西川 瑞代、檜垣 一美

内　　容 /　調査が終了した「未整理資料」を少しでも良い状態で保管しようと、着物や紙資料を薄葉紙に包んだり、ほかの箱に詰め直したりと出来ることから始めていました。しかし形が不揃いの物を、どのように保管整理をすればいいものか・・・と行き詰ってしまいました。

その時、「未整理資料」が置いてある「前室」と呼ばれている場所が、新しく受け入れた寄贈資料を収蔵庫に収める準備をする場所だと知りました。にもかかわらず煩雑に物が置かれている状態で、とても作業ができません。この「前室」を整理しないことには何も出来ないのではないかと「前室」を整理することに。

棚を設置し、資料を収納・整理していくと、今まで見えていなかった床が見えてきて、清々しい気持ちになりました。この夏は記録的な暑さだったため、熱中症、生命の危機を感じ、空調のない収蔵庫での作業は中断しましたが、なんとか「前室」と呼ぶのにふさわしいスペースが出来たと思います。

これで 4 年に渡る「未整理資料」に関する作業は一旦終了となりました。続けて、収蔵庫が「収蔵展示室」として、開かれた収蔵庫になれるようにしていければと思います。

(原稿：市民学芸員 竹元 智子)

祭りの衣装・祭りの小道具

調査地区	いつ 現在 / 昔 (　　) 年頃	語り手・年齢 (　　歳)	調査者 調査日 年　月　日

この衣装を着るのは、誰？
・地車の　屋根の上・前上・後ろ上・下・その他 (　　)
・団体 (　　)　・役職や係 (　　)
・年齢 (　　)　・性別 (　　)
・デザインについて (誰が、いつ頃、意味)、その他

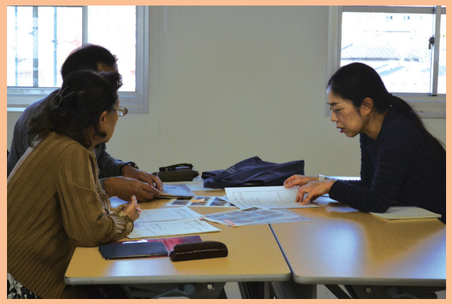
小道具①	小道具②
・名称 (　　) ・持つ人 (　　) ・手で持つ・その他 (　　)	・名称 (　　) ・持つ人 (　　) ・手で持つ・その他 (　　)

祭りの衣装・祭りの小道具

平成 30 年 5 月 12 日、6 月 9 日、7 月 14 日、8 月 11 日、9 月 8 日、10 月 13 日、11 月 10 日、12 月 8 日、平成 31 年 1 月 12 日、2 月 9 日、3 月 9 日 (土)　14 時～ 16 時

登 録 者 /　柿木 薫、小泊 繁美、中西 昭治、広田 美和、前田 喜久子、森川 安生

内　　容 /　秋祭りに曳行するだんじりについて、曳き手の衣装や小道具を調べる。調査票を作成し、各地区ごとの秋祭りで調査を行う。



何かし隊
門真市立歴史資料館見学対応

平成 30 年 12 月 9 日 (日)　13 時半〜 15 時

参加者数 /　15 名 (見学者 + 対応した市民学芸員の人数)
担　　当 /　大畑 博嗣
内　　容 /　門真市立歴史資料館「市民学芸員養成講座」受講生への館内見学対応を行った後、当館の市民学芸員との懇談を行った。

何かし隊
企画展「ちょっとむかしのくらし」展示準備

平成 30 年 12 月 14 日 (金)、15 日 (土)　10 時〜 16 時

参加者数 /　9 名 (延べ人数)
担　　当 /　甲斐 規予子
内　　容 /　2019 年 1 月から開催予定の、冬季展「ちょっとむかしのくらし」の展示作業を行った。民家の屋内の再現展示の設営などを中心に行った。

河内木綿知り隊・作り隊

平成 30 年 4 月 19 日 (木)、27 日 (金)、5 月 16 日 (水)、17 日 (木)、6 月 21 日 (木)、7 月 19 日 (木)、8 月 29 日 (水)、9 月 20 日 (木)、10 月 18 日 (木)、30 日 (火)、11 月 5 日 (月)、13 日 (火)、15 日 (木)、23 日 (金)、30 日 (金)、12 月 7 日 (金)、13 日 (木)27 日 (木)、平成 31 年 1 月 8 日 (火)、10 日 (木)、2 月 21 日 (木)、3 月 21 日 (木 / 祝)　14 時〜 16 時

参加者数 /　177 名 (延べ人数)
担　　当 /　森井 綾乃
内　　容 /　他館の伝承活動や、『綿圃要務』等を参考として、木綿栽培や収穫した木綿を使った布づくりを目指す。企画展「ちょっとむかしのくらし」において河内木綿特集コーナーの制作も行った。

作り隊

平成 30 年 4 月 20 日、5 月 18 日、6 月 22 日、7 月 20 日、8 月 24 日、9 月 21 日、10 月 19 日、11 月 16 日、12 月 21 日、平成 31 年 1 月 18 日、2 月 15 日、3 月 15 日 (金)　14 時〜 16 時

参加者数 /　97 名 (延べ人数)
担　　当 /　森田 拓馬
内　　容 /　市民学芸員が資料の「素材」「構造」「用途」などを切り口に、『ものづくり』を通して、民具、道具などの資料形状をより深く理解することを目的として実施。

収蔵庫整理し隊

平成 30 年 4 月 24 日、5 月 22 日、6 月 21 日 (木)、7 月 24 日、8 月 28 日、9 月 11 日、25 日、10 月 9 日、23 日、11 月 19 日 (月)、21 日 (水)、26 日 (月)、27 日、12 月 11 日、25 日、平成 31 年 22 日、2 月 14 日 (木)、3 月 26 日　基本的に火曜日　14 時〜 16 時

参加者数 /　135 名 (延べ人数)
担　　当 /　甲斐 規予子
内　　容 /　平成 30 年から活動を開始。今年度は「衣」にまつわる資料のクリーニングや、デジタルアーカイブ化に向けた撮影作業、資料に関する勉強会などを実施。

古文書探し隊

平成 30 年 4 月 25 日、5 月 9 日、23 日、6 月 13 日、23 日、7 月 11 日、25 日、8 月 8 日、22 日、9 月 12 日、26 日、10 月 10 日、24 日、11 月 14 日、28 日、12 月 12 日、26 日、1 月 9 日、23 日、2 月 13 日、27 日、3 月 6 日、20 日 (水)　14 時〜 16 時

参加者数 /　303 名 (延べ人数)
担　　当 /　大畑 博嗣
内　　容 /　木綿にまつわる古文書について、調査カードの作成、翻刻、デジタルアーカイブ化に向けた写真撮影という一連の作業を平成 31 年実施の企画展に向けて実施。

Ⅱ　研究報告

2018

「市民参加型展示の新たな形をさぐる　－大東市の事例から－」

北村　美香

1. 大東市と大東市立歴史民俗資料館の概要

大東市は、大阪府の東部河内地方のほぼ中央に位置し、東は歴史のある飯盛山を経て、奈良県の生駒市に、西は大阪市に接している。縄文時代草創期頃から人々の活動が営まれるこの歴史ある大東の地に、昭和 62(1987) 年に大東市立歴史民俗資料館 (以下、資料館) は開館した。平成 20(2008) 年度より指定管理制度導入で、市直営から指定管理者へ運営体制が変わった。その後、郷土の歴史、文化遺産等に関する市民の理解と認識を深め、大東市の歴史、文化財に関する学びや情報の発信拠点となるべく、旧四条小学校を活用して設けられた複合施設である同市歴史とスポーツふれあいセンター内に、平成 24(2014) 年 4 月リニューアルオープンした。

2. 市民学芸員との連携

資料館は、地域の歴史や文化に関心のある市民の憩いと交流の場をなることを目指し、大東の歴史や文化、資料館活動に興味のある市民の方を対象に、資料館運営のパートナーとして、平成 22(2010) 年度より市民学芸員制度を立ち上げた。

市民学芸員とは、学芸員体験講座を受講し、文化財に関する基礎知識を身に着けた専門ボランティアスタッフとして活動している。市民学芸員の存在は、資料館での活動にとどまらず、地域で長年過ごしてきた強みとネットワークを活かして資料館を支えてくれた重要な存在だと考えている。

その市民学芸員と共働した成果の一つに、平成 27 年度の企画展「ちょっとむかしのくらし ~ きくえさんのいちにち ~」がある[i]。その経験は今も引き継がれており、その経験がさらにバージョンアップして、当館の展示を彩ってくれている。

3.「みんなで見る！知る！楽しむ野崎のまち」展

資料館では、これまでも地域とのつながりや、市民との共働に重点を置いた活動をしてきたが、さらに「地域との連携」「地域活性化」を目指し、身近な地域や資料館を新しい視点で楽しんでもらうきっかけづくりとして、平成 30(2018) 年度夏季企画展「みんなで見る！知る！楽しむ野崎のまち」を企画した。地域の発展に資料館ができることは、今そこにあるモノが持つ価値を再発見し、魅力に満ちたまちであることを、市民と共に楽しみながら進めることで魅力を発信していくことだと考えたためである。

左 : みんなで見る！知る！楽しむ野崎のまち」展チラシ
右 : 展示室入口より

本企画展では、野崎を「見る」「知る」「楽しむ」というキーワードを設定し、自分たちの住むまちを改めて探究する機会を目指した。

(1) 会期前に実施した取り組み

視点のひとつ目である「誰もが気軽に展示作成へ参加できる」取り組みとして、会期 3 ヶ月前より参加型プログラムをイベントとして 3 回と、常時参加できるような取り組みを実施した。あらかじめ準備された「存在感」「お気に入り」「博物館」の言葉と、それに合うものをまちの中で探して写真を撮影してもらい、選んだ言葉と撮影したものとの関連付けた根拠を一枚の紙にまとめた【発見カード】を作成するプログラムを実施した。多くの方が気軽に参加できるよう、スタッフがファシリテーションするイベントとしての実施と、来館者や地域の方が各自の都合のいい時に参加できる自由参加も受け入れた。

①参加型プログラムの実施

いつも通る、目にしている野崎のまちでの市民それぞれの発見や気づきは共有することが難しい。しかし、言葉と写真をつなげた野崎のまちの【発見カード】を作成することで少しでも可視化することができると考えた。可視化することで、他者の想いや視点を知ること、また、他者の発見から新たな魅力を発見することが目的である。

市民とともに作成した【発見カード】は、まちの記録としてまとめ、【のざき大辞典】として展示に活用するために、事前での実施を行った。事前開催のイベントでは、合計 38 枚の【発見カード】が作成され、展示することができた。

② SNS を活用した投稿による市民参加

スタッフによるプログラム実施は、時間的な制約が多いため、参加できる人が限られてしまうのではないかとの懸念は企画当初からあった。そのため、実施当日に都合が悪い方にもいつでも参加してもらえるように、カード作成のお誘いと台紙をチラシとして近隣の商店街などへ配布するとともに、館内での案内および作業場所の設置などを行った。しかし、「写真をプリントアウトするのが手間」「もっと気軽にできるようにして欲しい」などの声をいただき、SNS を活用して気軽に投稿できるように Facebook ページ「のざき大辞典」[ii] を立ち上げた。

左 : 言葉に合うモノを撮影　中央 :【発見カード】作成風景　右 : 完成した【発見カード】

これまで作成されたカードの紹介なども一緒にしたところ、投稿数や投稿に対するコメントなどを多くいただくことができ、会期始めには【発見カード】をイベントで作成されたものと合わせて、130 枚紹介することができた。参加の方法などは、事前に想定していても予定通りにいかないことが多い。そのような場合、地域の方の感想などをこまめに聞けたため、即時対応が可能になった。また、今回の実施について、カード作成だけではなく、お声がけをする先やまちの面白いスポットなどを紹介してくれた市民学芸員の存在は大変大きなものだった。

(2) 資料館での展示

事前に市民と作成した【発見カード】を中心に、野崎のまちを過去から現在まで楽しむきっかけを目指して、全体を３つのコーナーに分けた。展示室の形状から、入口と出口が同じになってしまうため、それを活かして「館外の今の野崎のまち」から入り、まず発見カードを活用した【みんなの発見した野崎のまちの魅力を紹介！のざき大辞典】へ。その後、廊下を移動しながら【歴史ある野崎のまちを古写真から見る！のざき写真集】でまち並みを写真で今昔比較をしてもらいながら、資料館を紹介する【一緒にもっと見て、知って、楽しみましょう！のざきの資料館】へと続く流れにした。帰りはこれらを逆の順番で見ながら振り返りの時間にもしながら、再び「館外の今の野崎のまち」へと戻るイメージである。

誰もが気軽に展示作成をはじめ資料館の活動へ参加できることを目的とした【みんなの発見した野崎のまちの魅力を紹介！のざき大辞典】では、地域の方が楽しめるのはもちろんであるが、野崎のまちに馴染みの薄い方にも楽しんでもらえるように、まちの中心となる商店街の風景写真を展示室内周囲に設置し、各カードの場所が分かるように中心に大きな地図を設置してプロットすることにした。また、カード作成時や参加協力のお願いなどで出会ったお店のチラシや商品のパッケージなども一緒に展示し、野崎のまちをリアルに感じられる工夫を行った。展示室内では、利用者が会話する姿をよく見かけ、「○○のお店だったら、私なら違うのを紹介するなぁ。」「ここって毎日通るのに、こんなのあったっけ？」「なんか面白いね。博物館って勉強する所だと思ってたけど、楽しいわ。」「帰り、ちょっと遠回りしてみようか？」などの嬉しいコメントを聞くことができた。

左 : 壁面の写真とカードなど　右 : まちの地図とカードを繋ぐ

次に、古写真から昔の風景を見て、時間の流れの中で現在と比べてもらう【歴史ある野崎のまちを古写真から見る！のざき写真集】では、昭和の前半の野崎のまちとして、今では見ることの出来なくなった景色と、市民誰もが共感できるランドマークを古写真により紹介した。近くを流れる水路に船が行き交い、参拝客を運んでいた「野崎まいり」でにぎわう野崎のまちを中心に、まちのランドマークである小学校の校舎や周辺の景色などを当時の風景と、現在のまちをビジュアルで比較できるようにした。写真を用いることで、年齢や地域での居住年数等に限らず、それぞれの記憶の中にあるものとの関係性を持つことができるのではないかと考えた。来館者の中には年配の方も多く、写真の撮影時期や場所に関することをお話してくれる方や、子どもたちに昔話をしてくれる方もいた。幅広い来館者が楽しめるコーナーとしては、一定の成果はあったと言える。しかし、今回展示した写真は、建物のみを中心に撮影されたものが多かったこと。野崎のまちの日常風景を撮影したモノが少なかったことなどから、展示のねらいを達成するためには写真の選択については再検討が必要であることが分かった。

最後に、野崎のまちの一員として、市民学芸員とともに地域を調べ、文化財を守り、野崎や大東市の魅力を伝え、市民の学びを支えていきたいと考えている資料館の活動を、【一緒にもっと見て、知って、楽しみましょう！のざきの資料館】として資料館のお仕事全般と、スタッフがそれぞれ自分の専門や担当から紹介したいオススメの資料や取り組みを５人の学芸員と館長がそれぞれ紹介した。資料館の仕事全体を網羅できた展示では決してないが、資料館にいる学芸員の自己紹介を兼ねた展示となり、それぞれの想いが表現出来たのではないかと思っている。

上 : カードと関連するパッケージなども展示
中央 : 開催中もカード作成ができる工夫も
下 : 廊下を活用した写真展示

4. おわりに

今回の取り組みで、資料館のある野崎のまちを改めて立ち止まり、他者の思いや発見を知ることで違う視点で見つめ直すことができた。地域の方にとっては誰もが知っている風景であるはずだが、意外と見過ごしてしまうものでもある。だからこそ見過ごしてしまいがちな価値や魅力を再発見することは、地域活性化においても重要であることを強く実感した。記録にも残りにくいような日常の暮らしの出来事だからこそ、地域博物館の役割として記録することが求められているのではないだろうか。当たり前の暮らしを記録することは実は大変難しい。学芸員だけでできるものでもないため、地域の方と一緒に楽しみながら行う方法のひとつにはなったのではないかと言える。この取り組みを細く、長くでも続けることで、将来的に地域の記録として還元できることを望んでいる。

上 : 学芸員によるお仕事紹介
下 : 収蔵資料担当学芸員による民具調査紹介

註

ⅰ） 武井二葉　2016「民具の展示を考える―企画展「ちょっとむかしのくらし～きくえさんのいちにち～」を例に」『博物館研究』Vol.51 No.8 （公財）日本博物館協会

ⅱ） facebook ページ「のざき大辞典」 https://www.facebook.com/rekimin2018/

※本原稿は、（公財）日本博物館協会『博物館研究』Vol.54 No.8 に掲載されています。

摘を取り上げたが、長慶も三好氏の本拠地である阿波国の興正寺系寺院とのつながりを見出せる。徳島県美馬市美馬町の安楽寺に、永正十七年（一五二〇）に三好千熊丸（長慶）が発給した諸役免許状[32]と篠原長政の添状[33]が残されている。安楽寺は、現在では浄土真宗本願寺派に属する寺院であるが、中世には仏光寺系の寺院として開創されており、仏光寺教豪が蓮如に帰参したことを契機に安楽寺は本願寺に帰属している[34]。さて、二通の書状に話を戻すが、諸役免許状の発給者については、千葉氏の指摘通り[35]幼少期の長慶だと考えられ、所領内の真宗寺院に免状を発給し、長慶が家督を継ぐ前から良好な関係を築いていたのではないかと考えられる。こういった事例が徳島県内の真宗寺院でもあるのか、今後の課題として調査・検討を行う必要性がある。

そして、昨今、大東市内では長慶と大東市域や四条畷市域で事例が見られる河内キリシタンとの関係がクローズアップされているが、今回『日記』などの本願寺関係史料から見えた事柄を加味しつつ、戦国期北河内の宗教状況を検討していかなければならない。

註

1）天野忠幸ａ『戦国期三好政権の研究』（清文堂出版、二〇一〇）、同ｂ『三好長慶―諸人之を仰ぐこと北斗泰山―』（ミネルバ書房、二〇一四）など
2）天野忠幸「大阪湾の港湾都市と三好政権―法華宗を媒介に―」（『都市文化研究』４号、大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター編、二〇〇四年）
3）前掲註１ｂ
4）安藤弥「本願寺証如『天文日記』について」（同著『戦国期宗教勢力史論』第Ⅱ部第三章、法藏館、二〇一九）
5）『石山本願寺日記』上巻（清文堂出版、一九三〇初版、一九六六復刻）以下、特に記述がない場合、記事はここから引用した。
6）『石山本願寺日記』上巻索引（清文堂出版、一九六六）
7）「本福寺明宗跡書」（『真宗史料集成』第二巻、同朋舎出版、一九八三）に「三善千熊に扱をまかせて」とあり、両者の仲介を行ったことがわかる。
8）前掲註１ｂ
9）前掲註１ｂ、『細川両家記』（『群書類従』第二十輯、続群書類従完成会、一九二九）、『足利季世記』（『改訂史籍集覧』第十三冊、近藤活版所、一九〇二）
10）前掲註１ｂ、前掲註13『細川両家記』・『足利季世記』
11）『日記』天文十八年六月二十七日条
12）前掲註８
13）『日記』天文二十一年四月八日条、四月十日条
14）『日記』天文十三年六月十八日条
15）『日記』天文十七年六月二十五日条
16）『日記』天文八年六月二十三日条
17）『日記』天文九年十二月二十八日条
18）『日記』天文九年五月十日条
19）前掲註１ａ、ｂ
20）『日記』天文二十一年八月六日条、金龍静「加賀一向一揆の構造」（同著『一向一揆論』第三章、吉川弘文館、二〇〇四）に幕府からの加賀国に対する国役に対応がふれられている。
21）前掲註１ｂ、長江正一『三好長慶』（吉川弘文館、一九六八初版、二〇〇六新装版第三版）
22）『日記』天文二十二年十月二十九日条
23）前掲註27
24）大原美代子「解題・解説」（『大系真宗史料』文書記録編10『私心記』、真宗史料刊行会編、法藏館、二〇一六）
25）『私心記』（『大系真宗史料』文書記録編10、真宗史料刊行会編、法藏館、二〇一六）以下、特に記述がない場合、記事はここから引用した。
26）金龍静「畿内の天文一揆考」（同著『一向一揆論』第五章、吉川弘文館、二〇〇四）
27）前掲註１ｂ
28）前掲註１ｂ
29）木沢勢との戦闘については『私心記』天文十一年三月九日、十七日、十八日条など、晴元との戦闘については、天文十八年二月二十六日条、同年六月二十四日条など。
30）永禄三年一月十四日条、同年四月八日条、同年七月七日条など。
31）『証如書札案』（『大系真宗史料』文書記録編４『宗主消息』、真宗史料刊行会編、法藏館、二〇一四）以下、特に記述がない場合、記事はここから引用した。
32）「三好千熊丸諸役免許状」（『安楽寺文書』上第一箱一号、千葉乗隆編、同朋舎出版、一九九〇）
33）「篠原長政添状」（『安楽寺文書』上第一箱一号、千葉乗隆編、同朋舎出版、一九九〇）
34）千葉乗隆「序」（『安楽寺文書』上、千葉乗隆編、同朋舎出版、一九九〇）
35）千葉乗隆「解説」（『安楽寺文書』下、千葉乗隆編、同朋舎出版、一九九五）

と考える。

これまで本願寺・証如と三好長慶との関係を示す記事を『日記』の中から抽出し、双方の関係がどのようなものであったのか述べてきた。次の章では、『私心記』など同時期に記された本願寺側の史料から、長慶と本願寺の関係を検討していく。

二、『日記』以外の史料からみる長慶と本願寺の関係

(1)『私心記』に見る長慶と本願寺の関係

『私心記』は、本願寺八代宗主蓮如の末子で、枚方順興寺の住持を務めた実従が記した日記で、実従が三十五歳であった天文元年（一五三二）から六十四歳の永禄四年（一五六一）まで現存する。戦国期の本願寺教団内だけなく、対外的な事柄も記載されているため、証如が記した『日記』と共に、当該期の真宗史・本願寺教団史研究の基礎的史料となっている。

この『私心記』[25]より、長慶及び家臣との関係を示す記述を抽出すると、二十五件確認できる。内訳としては、長慶及び家臣が参加する戦闘の戦況報告が十六件、贈答物のやり取りに関する記載が六件、実従が赴いた戦場視察に関する記述が二件、長慶家臣との面談についての記載が一件である。その中でも最も古い記事としては、天文三年（一五三四）六月五日条で、「三好伊賀・久助、此方へ来り候、野田陣取候、見物ニ行、」とあり、その翌七日には、「三好伊賀・九民宿へ礼ニ行、その前ニ民モ被行候、上ヨリ御樽荷樽五荷三種被遣候、森長門御使也、」と記されている。その後、同月二十七日には「源八三好方其外諸勢椋橋へ陳取也、椋橋へ敵取籠候ヲ進落入城也、」と記載があり、六月五日に長慶の一族である三好伊賀（連盛）と久助が野田に陣を置いたので実従が赴き、翌日には証如が三好伊賀と久助へ贈答品を送っている。また、二十七日には三好勢が椋橋（現、豊中市）へ攻めたことが記されている。この記事について、金龍静氏[26]や天野氏[27]によれば、同年五月に本願寺は細川晴元側との和睦を破棄し、本願寺は三好氏と手を組み、細川方と戦闘状態に入り細川方の椋橋城を攻めた。しかし、伊丹氏と木沢長政の仲介により、細川方へ帰参するという事件が起こったようである。その後、再び本願寺は細川方と交戦状態になり、天文五年七月二十九日には、細川方の木沢長政により、本願寺勢が立て籠もっていた摂津中嶋へ攻め込まれ、本願寺勢を壊滅されるなどして、細川方と和睦を結んだのである[28]。

右に挙げた記載以外にも、長慶と木沢長政、細川晴元との戦闘の状況についての記載や[29]、永禄三年（一五六〇）正月に、長慶や松永久秀など三好家家臣へ贈答品を送っている記載などが見え[30]、天文五年以降は、本願寺と長慶方との戦闘記録は見えず、良好な関係を築いていたのではないかと考えられる。

(2)『証如書札案』に見る長慶と本願寺の関係

次に、証如の手控えであった『証如書札案[31]』から、長慶への書状の控えを抽出し、本願寺と長慶との関係性を検討する。『証如書札案』より長慶（孫次郎）宛の書状は、十八通確認することができる。内訳としては、大まかな分類を行うと、出陣における贈答に関わるものが五通、音信などを伴う贈答に関わるものが十三通確認できる。その中でも音信に関わるものでは、年始挨拶が三通、年始返礼が一通、年末挨拶が一通、春の祝い（上巳の節句）が二通、音信が三通、上洛を祝うものが一通、長慶の母親が亡くなった時の香典が一通と分けることが出来る。

この『証如書札案』については、先に挙げた『日記』と対応関係になっており、天文八年八月十四日条に記載があった、越水城入城に関する記事について、証如は、十二日付けで「至小清水入城之由候、時宜如何候哉、次三種・五荷令遣之候、」と長慶へ書状を書き、十四日に送付していることが確認できる。右に挙げたように、『証如書札案』の記事を確認すると、『日記』と同様に政治的つながりだけでなく、年始挨拶や母親の香典のやり取りが見られ、個人的なつながりも強かったと考えられる。

むすびに

これまで、『日記』や『私心記』・『証如書札案』の本願寺側の史料から、三好長慶との関係を示す記事を抽出し、政治権力と証如・本願寺との関係について明らかにしてきたが、最後に本稿のまとめと今後の課題を述べて本稿を締めたい。

『日記』において本願寺、もしくは証如と三好長慶との関係を示す記事が一〇〇件確認することが出来、その中でも、贈答物のやり取りに関わる記事とそれ以外の記事と分類し、検討を行った。贈答物のやり取りの中でも、音信を目的としたものと長慶が出陣時において品物を送る事例が見られた。上記以外では、年頭の挨拶や天文二十一年の足利義輝と細川晴元が上洛する際に義輝と長慶双方に品物を送っていた。さらに、「室町殿造作料」の加賀国へ負担について、本願寺を介して依頼をしている。これに加えて、長慶の父元長の年忌法要の時や長慶の母が亡くなった際に香奠として金品を送っている記事が散見される。こういったことから、音信や年頭の挨拶、将軍の上洛時といった政治的な付き合いと思われる贈答品のやり取りだけでなく、両親の年忌法要といったプライベートな場合にも品物を送っていることから、本願寺・証如と長慶の関係は、他の大名家と比べて良好かつ親密な関係であったのではないかと考えられる。

また、『証如書札案』についても、『日記』と同様に音信や年末年始に伴う挨拶として、贈答品のやり取りを行っている書状が見え、本願寺・証如と長慶との関係性が良好であったことが確認することが出来た。

さらに、『私心記』の記事を見ても、長慶との関係を示す記事が二十五件確認でき、その多くが大阪本願寺周辺で行われる大名間の戦闘状況に関する記事ではあるが、『日記』のように数多く抽出できなかったが、長慶やその家臣への贈答品のやり取りを示す記事が確認することが出来、証如以外にも実従のような本願寺内部の人物でも、長慶との関係を築いていたことが明らかになった。

先に、天野氏により、実休が興正寺との関わりについての指

事は、六十三件と最も多く見られる。ここでは、どういった状況でやり取りが行なわれていたのか、記事を確認していきたい。

長慶と証如は、年始の挨拶に贈り物を互いに送り合っている。長慶から送られてきた、もしくは証如が返礼として品物を送ったという記事が、十九件確認出来る。送られていない年もあるが、ほぼ毎年相互に送られている。

また、天文十八年（一五四九）三月、細川晴元・三好政長と対立を深めた長慶は、遊佐長教と共に政長の息子である政生（『足利季世記』では「政勝」）が居城とする榎並城と晴元が籠城する中島城を攻めるために出陣し、近くの柴島城（大阪市東淀川区）を攻め落とした。その後六月には、政長が中島城を攻めるために近くの江口（大阪市東淀川区）に陣取った。二十四日には長慶方と政長方と戦闘があり、長慶方が政長を始め、多くの有力な家臣を討ち取り、勝利を収めた。その後、晴元は前将軍義晴・将軍義輝と共に近江坂本へ逃れた[10]。この戦闘があった三日後の二十七日に、証如は細川氏綱や長慶、十河一存などへ贈り物を送っている[11]。この戦闘が終結した三年後の天文二十一年正月には六角義賢の仲介により、長慶は将軍義輝・晴元と和睦し、将軍が入洛した[12]。この件に関しても、同年四月に証如は、義輝と長慶に品物を送っている[13]。

この他にも、長慶個人に関わるような出来事に際しても、証如は贈答品を送っている。

天文七年（一五三八）六月十四日条には、「三好孫次郎へ、親七回之儀付而、小経一巻五百疋、以円山遣之」とあり、長慶の父元長の七回忌にあたり、証如は「小経」（『仏説阿弥陀経』）一巻を送っている。こういったことは、七回忌だけに限らず、十三回忌[15]・十七回忌 の時にも香奠として金品を送っている。また、元長の年忌だけでなく、長慶の母が亡くなった際にも、香奠として千疋と書状を長慶へ送っている[16]。

さらに、天文九年（一五四〇）十二月二十七日には、「従三好方来正月五日令上洛之間、馬一疋所望之由申来候。返事ニ此方ニ不所持之条、相尋之可送遣之由、申遣之也」とあり、翌天文十年一月に長慶が幕府へ出仕するために、馬を一頭用意して欲しい旨を伝えられたが、証如は、現在「不所持」のため、他へ尋ねる旨を返信している。しかしながら、馬はすぐに見つかったようで、翌二十八日には、長慶方へ馬を引き渡している[17]。

これまで見てきたように、証如と長慶との贈答品のやり取りは、政治的なつながりとして、音信や戦闘時・年始の挨拶に贈答品を送っているだけでなく、両親の葬儀・年忌法要や幕府への出仕に際しても金品や馬のやり取りを行っており、双方の個人的なつながりが強かったことがわかる。

それでは、次に今まで見てきたような贈答品のやり取り以外

に、証如と長慶とのやり取りがなかったのか、『日記』から確認をしていきたい。

（2）その他の記事から見る本願寺と三好長慶の関係

『日記』の中で贈答品のやり取り以外に、本願寺（証如）と長慶との関わりを示す記述は、一〇〇件中十五件と少ない。しかしながら、当時の政治的状況を考えると取り上げるべき記述がいくつかあるので、取り上げていきたい。

まず、本願寺末寺における問題について、長慶が介入し、解決を図った記述がある。天文九年（一五四〇）五月九日条に、

就本覚寺与森新助〈前新四郎事也〉同銭主臼井五郎左衛門替銭事、従三好孫次郎方憲法ニ申付、向後対此方申懸之儀不可有之由、孫次郎以書状下間光頼方へ即本覚寺一粒彼両人へ不出之相果候。尤順諾之裁断感思給也。彼書状此方ニ置之。又案文光頼方ニ可置之由、申付也。

とあり、越前本覚寺と森新助・臼井五郎左衛門が替銭について揉めていたが、長慶方の「憲法」という人物へ申し付けたところ、今後、本願寺側はこの件について関与せず、下間光頼方は本覚寺側に利があるので、「一粒」も渡さなくてもよい旨の裁許が長慶からあり、この内容が書かれた書状の証文を本願寺へ置き、案文を光頼方へ渡したことが書かれている。翌日には、長慶方へ「彼公事之儀憲法ニ申付候段、以祝着」の旨、贈り物を送られている。また、本覚寺からも長慶方へ三千疋が送られている[18]。この記事について、長慶方の「憲法」という人物もしくは機関や、裁判に関する詳細な経緯については、不明な点が多く残されているが、長慶が他国の問題に介入した事例としては、天文二十四年に尼子氏の居城である出雲富田城で行われた千部法華経読誦の際に法席争論が起こり、長慶が朝廷に上申を行って介入している[19]。しかしながら、この事例より以前から長慶が自分の領国以外の本願寺末寺の問題に介入し、裁判を行っている事例は、これまでの研究ではあまり取り上げられていない。さらに「孫次郎」と仮名を名乗っている時期であるので、長慶が権力を掌握する過程で重要な事例であると考えられる。

また、天文二十一年正月に長慶と足利義輝・細川晴元との和睦が成り、義輝と晴元が同年四月に京都へ帰還したが、八月には「室町殿」の造作料として加賀国の国役負担を本願寺へ依頼をしている[20]。しかしながら、長慶と義輝・晴元は再び袂を分かち、翌二十二年には、近江国の朽木へ逃亡している[21]。こうした状況の中、同年十月には晴元が堺幕府の将軍として擁立した足利義維が、阿波国から畿内へ「渡海」し、上洛を試みていたようで、上洛の取り計らいについて、「三河守」と長慶から本願寺へ直札が届いている。『日記』の記事によれば、「加州御料所」の負担と義輝と共に退散した奉公衆の知行分を負担するように加賀へ申し付けるので、本願寺からも申しつけるように依頼をしている[22]。これに対して証如は、加賀への国役負担については、長慶から申し付けるのは重要であるが、本願寺側とすれば義維が上洛すれば相談するので、判断を保留する旨を伝えたことが書かれている[23]。この記事に関して、これまでの先行研究では特に取り上げられておらず、義輝・晴元が京都から逃亡し、足利将軍が不在になったことで義維が上洛しようと画策していたことがわかる記事である。また、「室町殿」だけでなく、義維の造作料についても長慶から加賀国の国役負担をするように依頼されており、長慶が加賀国への申し入れについて、本願寺を介して協力を求めていることがわかる記事ではないか

【研究ノート】

三好長慶と本願寺・証如との関係―本願寺関係史料から見る

大畑　博嗣

はじめに

大東市は、大阪府東部に位置し、市域の東側に生駒山地があり、その麓に沿って東高野街道が南北に通じている。また、市域の中西部は平地で北から寝屋川が、南から恩知川が流入して住道駅前で合流し、西の大阪市内に向けて流れる地形となっている。こうした中で、戦国期に三好長慶が晩年に生駒山系の飯盛山に居城を構えたことが市内で注目され、城跡の発掘調査や長慶関連の市民向けの講座が行われている。また、長慶関連の書籍も天野忠幸氏の手により執筆され、出版されている[1]。

また、天野氏は四国から畿内に勢力を伸ばそうとしていた三好氏にとって、足がかりとして大阪湾の流通を掌握することが最重要課題であり、その課題を克服するために堺や尼崎に教線を伸ばした法華宗寺院を介在した支配を試みた。そして、法華宗の寺院や有力檀徒を通じて都市共同体への影響力を増し、その後、直接支配を行ったと指摘している[2]。また、長慶の実弟である三好実休が、讃岐や河内を攻略する際に興正寺とのつながりを持ち、興正寺門徒の堺商人と結びつき、興正寺は実休より特権を獲得し、高松や富田林で寺内を形成したとしている[3]。

しかしながら、天文の一向一揆終結後には、本願寺は、公家や朝廷とのつながりを持ち、証如は関白九条尚経の猶子となり、大僧都、権僧正といった僧官に補任されるなど、家格や寺格を上昇させた。また、大坂寺内や加賀国の支配を行っており[4]、一大勢力として畿内や北陸地域で活動を行っていた。そういう状況下で、三好長慶が本願寺や証如とどういった関係を築いていたのであろうか。

本稿では、三好長慶と本願寺もしくは証如がどういった関係であったのかを、証如の日記である『天文日記』と、蓮如の末子実従が記した日記『私心記』、証如の手控えである『証如書札案』といった本願寺関係史料より長慶に関連する記事を抽出して、その関係性を見ていく。

一、『天文日記』から見る本願寺と三好長慶の関係

十代証如が書き記した『天文日記[5]』（以下、『日記』と記す）には、三好長慶とその一族と思われる人物が数多く見受けられる。その中でも、三好長慶（三好、三好筑前守、三好千熊、三好孫二郎、孫次郎）に関する記述を抽出すると、一〇〇件確認することができる[6]。

記載の中で一番古いものは、天文六年（一五三七）五月二十七日条に見え、「三好千熊方へ為音信一腰、馬代、三種五荷。内者加地丹後、塩田若狭守此両人跡へ一腰、馬代一人くに遣候。」とあり、三好千熊（長慶）へ音信として刀や馬代を送り、彼の家臣である加地丹後守や塩田若狭守にも同様に贈り物を送っている。長慶に関連する記事の内、このような贈答物のやり取りを記したものが八十六件確認することが出来、全体の八割以上を占める。その中でも音信として贈答物のやり取り、長慶がどこかに出陣した際の贈答物のやり取り、年頭の挨拶といった上記以外での贈答物のやり取りの記事が見受けられる。これら以外にも、長慶との政治的な出来事や裁判などについて記された記事もあり、全体的に四つの性格を持った記事が確認出来る。この中から注目すべき記事を抽出し、本願寺と三好長慶の関係を検討していく。

（1）贈答物のやり取りから見る本願寺と三好長慶の関係

①音信・出陣時における贈答

天文期の三好氏は、長慶の父元長が一向一揆により、堺顕本寺において自害に追い込まれるが、長慶の代になり、足利義晴・義輝、細川晴元・氏綱、三好政長（宗三）との対立を通して勢力を拡大する時期であった。こういった時期に長慶と本願寺はどういった関係を有していたのだろうか。天文二年（一五三三）には、すでに本願寺と長慶との関係があり、天文の一向一揆で関係が悪化した細川晴元と本願寺との和睦の仲介を行うなど[7]、既に良好な関係であったと考えられる。こうした状況の中、どういった場面で贈答物のやり取りが行われているのであろうか。まずは、音信として贈答物のやり取り、長慶がどこかに出陣した際の贈答物のやり取りについて見ていきたい。

音信については、八十六件中十五件確認出来る。送る時期としては、毎年決まった時期に送っている訳ではなく、不定期に季節など関係なく贈り物を行っている。

次に、出陣時の贈答物のやり取りについては、八十六件中八件とそれほど多くはない。しかしながら、長慶の勢力拡大に大きく関わる軍事的行動において、他史料の傍証となるため、少し確認していきたい。八件の内、天文八年閏六月十六日条に「三好孫次郎就同名神五郎事、摂州上郡出陣候。依之以書状五荷三種遣之。使芝田也。」とある。この時期長慶は、父元長が補任されていた河内十七ヶ所の代官職をめぐり、幕府に訴えたことが発端となり、三好政長(神五郎)と争っていた。これに関して、長慶は摂津国上郡（現、高槻市、茨木市など）に出陣し、政長と争ったようで、同年八月十四日条では「三好孫次郎へ、今度小清水城へ入城之儀、又吉田源助公事旁ニ以書状三種五荷遣之。面ハ入城之儀也。」とあり、天野忠幸氏によれば[8]、足利義晴と六角定頼が両者の和睦を調停し、七月二十八日に和睦が成立し、芥川城を定頼に明け渡して、摂津越水城へ入城したようである。その出陣と入城の際に証如は、長慶に贈答物を送っている。

その他にも、天文十年九月二十一日条に「三好孫次郎至多田塩川要害令在陣、城攻之間、為音信、以書札五種十荷遣之。使芝田也。同神五郎へも三種五荷遣之。以頼堯書状也。」とあり、この時、勢力を広げる長慶が摂津の国人等と戦闘を行っていた時期で、三好政長と共に細川高国の縁戚にあたる塩川国満の一庫城を攻撃した際[9]にも、長慶と政長に贈答物を送っている。

このように、不定期ながら音信のためや、長慶の出陣時における贈答物のやり取りについて「日記」の記事から確認したが、次にそれ以外の贈答物のやり取りについて確認をしていきたい。

②音信・出陣時以外の贈答

音信・長慶の出陣時以外で贈答品のやり取りを行っている記

大東市立歴史民俗資料館　館報　第３号
令和２年（2020）３月 31 日　発行
編集・発行　大東市立歴史民俗資料館（指定管理者：株式会社アステム）
〒 574-0015　大阪府大東市野崎 3-6-1
TEL：072-876-7011　FAX：072-876-7702
デザイン　森井 綾乃 (株式会社アステム)